2025年2月2日（日）主日朝礼拝説教

『汚れた霊を追い出す』　井上隆晶牧師
イザヤ35章3～8節、ルカによる福音書4章31～41節

❶【悪霊の働き】

イエス様はカファルナウムの町で、安息日に会堂に行き、教えておられました。その時、会堂の中に汚れた悪霊に取りつかれた男がいて大声で叫びました。「**ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。**」（34節）聖書の中には悪霊の話がたくさん出てきますが、神学校では「悪霊」についての学科もなく、テキストもなく、学ぶことはありません。某神学校では、悪霊の話をすると笑われます。それは古臭い古代人の考え方だ、悪霊などいないと言うのです。先日、カトリックの神父さんに「大阪教区の中に『エクソシスト（悪霊払い）』をする神父はいますか？」と聞いたら、「いません」という返事が返って来ました。聖書の中に出て来る多くの悪霊に関する記事を「そんなものはいない」と簡単に片づけてしまってよいのでしょうか？パウロは悪霊の働きについてはっきりと書いています。

「**この世の神が、信じようとはしない人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです。**」（Ⅱコリント4：4）この世の神というのは悪霊のこと（悪霊が作り出した偶像）です。悪霊は、人の心の目をくらまし、キリストを信じられないようにします。**悪魔は神から人を引き離すか、または間違った神や間違ったメシアを教えようとします。偽物を信じるように働くのが悪霊なのです。だからカルト宗教などは完全に悪霊の業です。皆さんが教会にいる時（礼拝している時）はキリストを信じられても、教会から離れると神が分からなくなってくるのは悪霊が働いているからです。**

❷【人間の抵抗】

会堂の中に汚れた悪霊に取りつかれた男がいたことを驚く方がおられるのではないのでしょうか。しかしイエス様を一番殺そうとしたのは、律法学者や祭司などの宗教者たちです。神に一番近い人たちが、悪霊に利用される、悪霊の道具となる（すなわち取りつかれる）ということはあるのです。彼らがもし聖霊をもっていたらイエス様を信じたことでしょう。聖霊は彼らの中に住んでいませんでした。**本物が来れば、偽物は暴かれてしまいます。主人が帰ってくれば、僕は主人の座を降りなければなりません。イエス様が語り始めた時、自分が偽物であることがはっきりと分かったはずです。それなのに祭司長や学者たちは、自分の中に潜む悪や偽りを認めず、権力の座から降りようとはしませんでした。偽り（偶像）や権力にしがみつかせさせたのは悪霊の仕業です。**しかしこの男の人は、イエス様という光が入ってくることによって、自分の心が照らされて偽りの自分が露わになったので声を出して抵抗したのです。自分がこの方には勝てない事を知ってい

るので「**かまわないでくれ**」といいました。まだ祭司長たちよりましです。この男は「**正体は分かっている。神の聖者だ。**」といいました。イエス様を聖者と呼んだのは悪霊が始めてです。悪霊は人間よりもイエス様を知っています。しかし「**我々を滅ぼしに来たのか**」とも言っています。イエス様はけっして人を滅ぼすような方ではありません。**真実と嘘をごちゃまぜにして言うのが悪魔のやり口です。だから悪霊の告白に耳を傾けてはいけないのです。**カルト宗教も同じです。カルトは 100%間違っているのではありません。その中に嘘、偽りが入っています。祈りも伝道も、一生懸命であり間違っていませんが、メシアと救いの考え方が間違っているのです。だからイエス様は「**黙れ。**」と命じます。41 節にも「**悪霊を戒めて、ものを言うことをお許しにならなかった**」と書かれています。悪魔の証言を人が信じないようにするためです。

❸【悪霊を追い出す目的はどこにあるのか】

イエス様が「**この人から出て行け。**」と命じると、悪霊はその男を人々の中に投げ倒し、何の傷も負わせずに出て行きました。人々はイエス様の言葉の力に驚きました。聖書に「**わたしが神の霊で（ルカでは神の指で）悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。**」（マタイ 12：28）という言葉があり、また「**聖霊によらなければ、誰もイエスは主である、とは言えないのです。**」（Ⅰコリント 12：3）という言葉があります。聖霊によらなければ悪霊は出て行きませんし、イエス様を信じることもできません。キリストがその指で（神ご自身の指で）悪霊を追い出すのは、その人の中に神の国を造るためであり、聖霊をその人の心に住まわせ、イエス様を信じさせるためです。でも悪霊が追い出されてもすべての人がイエス様を信じる訳ではありません。100 人カルトを辞めても、キリスト信者になるのは 10 人くらいです。空き家になっている人が多いのです。そうすると前よりもっと悪い霊が入ってしまいます。残念です。聖霊に住んでもらうためには、私たちの意志が必要なのです。

人の体は、本来神の住まいです。悪霊の住家ではありません。イエス様の言葉は悪霊を追い出し、その人を正気に戻す力があります。イエス様の弟子とは、イエス様の言葉を聞いてひっくり返った者のなのです。「悪霊払い」とは「偽り払い、飾り払い、嘘払い、偶像、虚像払い」なのです。決してオカルトチックなものではありません。このことが安息日に起こりました。日曜日ごとに、イエス様の言葉を聞いて、私たちは清められ人間本来の姿に戻るのです。

❹【病気を癒す目的はどこにあるのか】

次に病気の癒しの話をしましょう。ペトロの姑が高い熱に苦しんでいました。ペトロは結婚していて妻がいたことが分かります。その妻の母、姑と同居していたのです。「**イエスが枕元に立って熱をしかりつけられると、熱は去り、彼女はすぐに起き上がって一同をもてなした。**」（39 節）とあります。ペトロの姑が何歳であったか分かりませんが、病気が治ったらすぐに起き上がって一同をもてなしたの

は驚きです。「**もてなす**」とは英語では「wait on」（給仕する）です。**ここに病気が癒されるための目的が書かれています。それは自分のためではなく、神と隣人に仕えるためです。**聖書が語る、病気の癒しの奇跡は面白いことに手足や感覚器官に集中しています。足のいやしはイエスの後に従ってゆくため、手はイエスのように受け与えるため、耳は真理を聞くようになるため、舌は私たちがイエス様を伝えるため、目は私たちの目が神の恵みに向かって開くようになるためです。実は弟子たちにも霊的な熱病がありました。それは人よりも偉くなりたいという野望であり、自分の欲望を追いかけるという熱心さの病です。その霊的熱病は互いに張り合わせ、神の言葉を聞けなくさせていました。

●7 世紀のシリアの聖イサクはこう書いています。
「熱心な人は決して心の平安を達成することはできない。そして、平安を奪われている人は喜びも奪われている。」「人間の間にあっては、熱心は…狭い心と深い無知から生じてくる一種の霊魂の病気である。」

アメリカで飛行機と空軍ヘリが衝突してほとんどの人が亡くなりました。その飛行機にはアメリカとロシアの多くのフィギャアスケートの選手が乗っていたそうです。中には家族で乗っていた人もいます。人の命は何と儚いものでしょう。生きていることは当たり前のことではなく、神によって生かされているのだと思います。それには意味があるのです。
先日、Ⅱコリント 5 章を読みました。4 節に「**死ぬはずのものが命に飲み込まれてしまうために、天から与えられる住みかを上に着たいからです。**」という言葉がありました。死ぬはずのものとは、この世の私たちの生命、人生です。命に飲み込まれるとは「キリストの復活した命に飲み込まれる」ということです。この個所について榎本保郎牧師はこう書いています。

●「この一日として楽しい日のない私たち、日常の災い、悲しみ、心労にあえぐ私たちが、そこで『いのちに飲み込まれる』とある。これが信仰生活なのである。…本当にこの、人生を暗いと悩む人が多い。だが、暗いのが人生である。そしてこの暗い人生、闇に、光が輝いているのである。光が輝いた時とは、神が独り子を世に賜った時、クリスマスなのである。この時があればこそ、私たちの人生が変わってゆくのである。病んだら病んだままで、…神の愛に飲み込まれ包まれてしまうのである。」

闇のまま光に飲み込まれる、死人が命に飲み込まれるのですから、必ず影響を受けるのです。ある日、この闇の人生の中に、キリストが入って来られたのです。そして私たちに触れてくださったのです。病の人は病気が癒され、カルトに入っていた人はそこから救い出されたのです。イエス様は私たち一人一人に、神に仕える能力を回復させてくださったのです。そうやって命に触れられ、命に飲み込まれた人は、これからの人生をこの命を与えてくださった方の為に使ってゆくのです。